

種員作
國貞画

都
優
縁

生
由



外題西國書

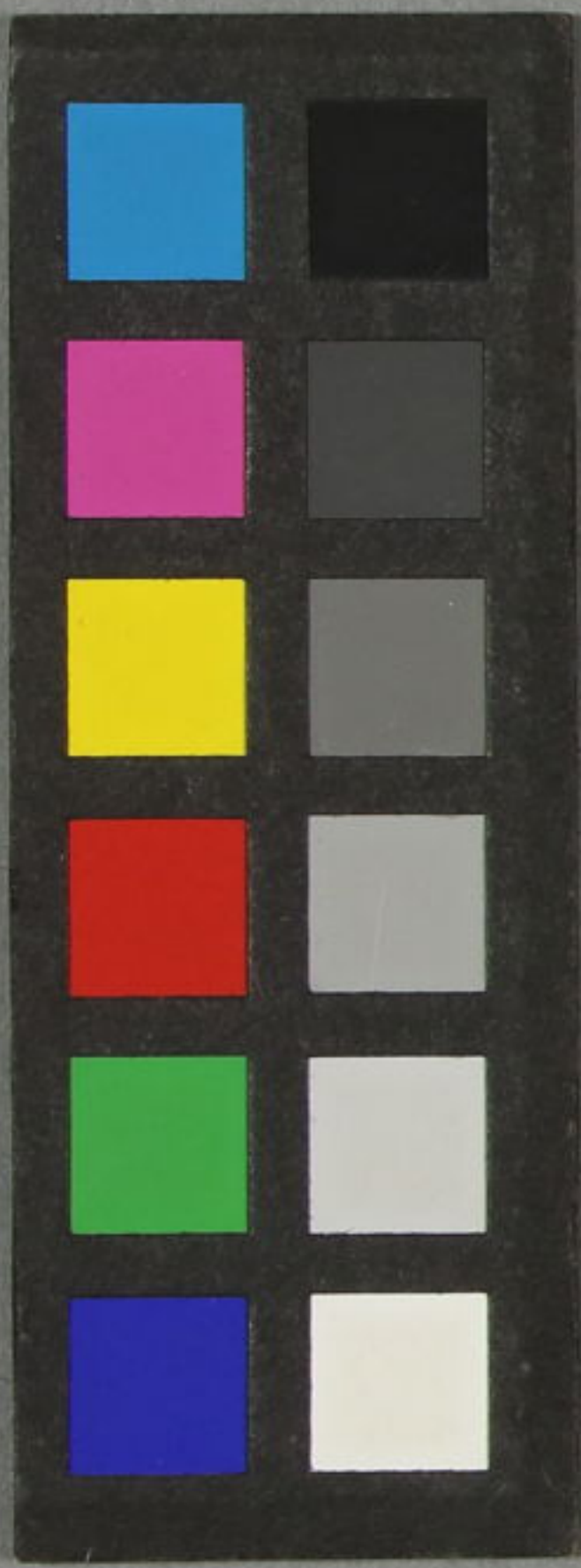
下編上

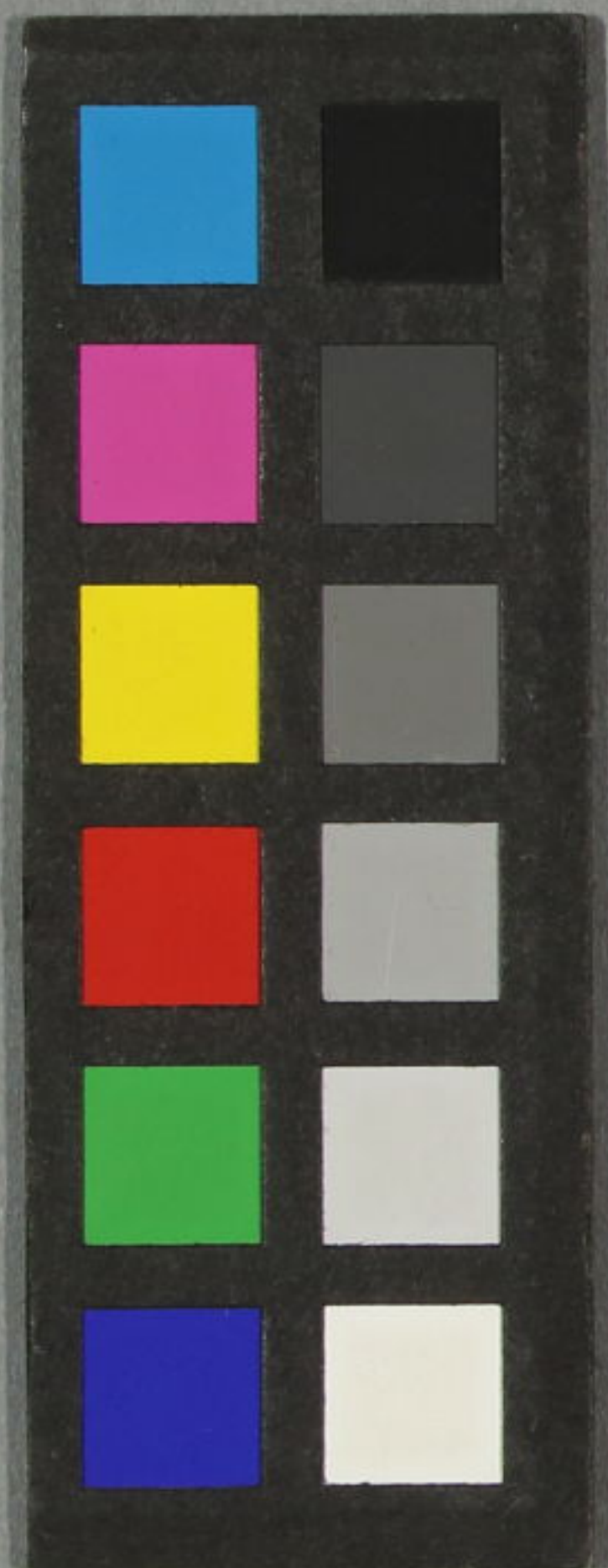
~ 13
3730
22

上編上

~ 13
3730
21

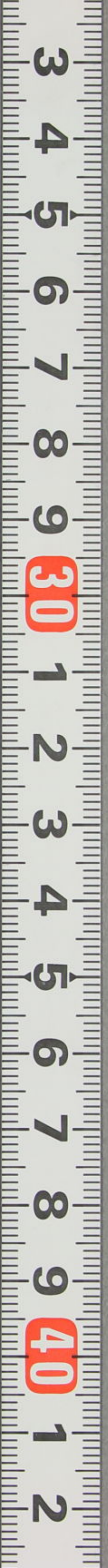
20
1
2
3
4
5
6
7
8
9
30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
40
1





十一編上

へ 13
3730
21



門 13
3730
21

夏由縁

鄙倭

十一編

上冊

種貞作

國貞画

後昇堂



一

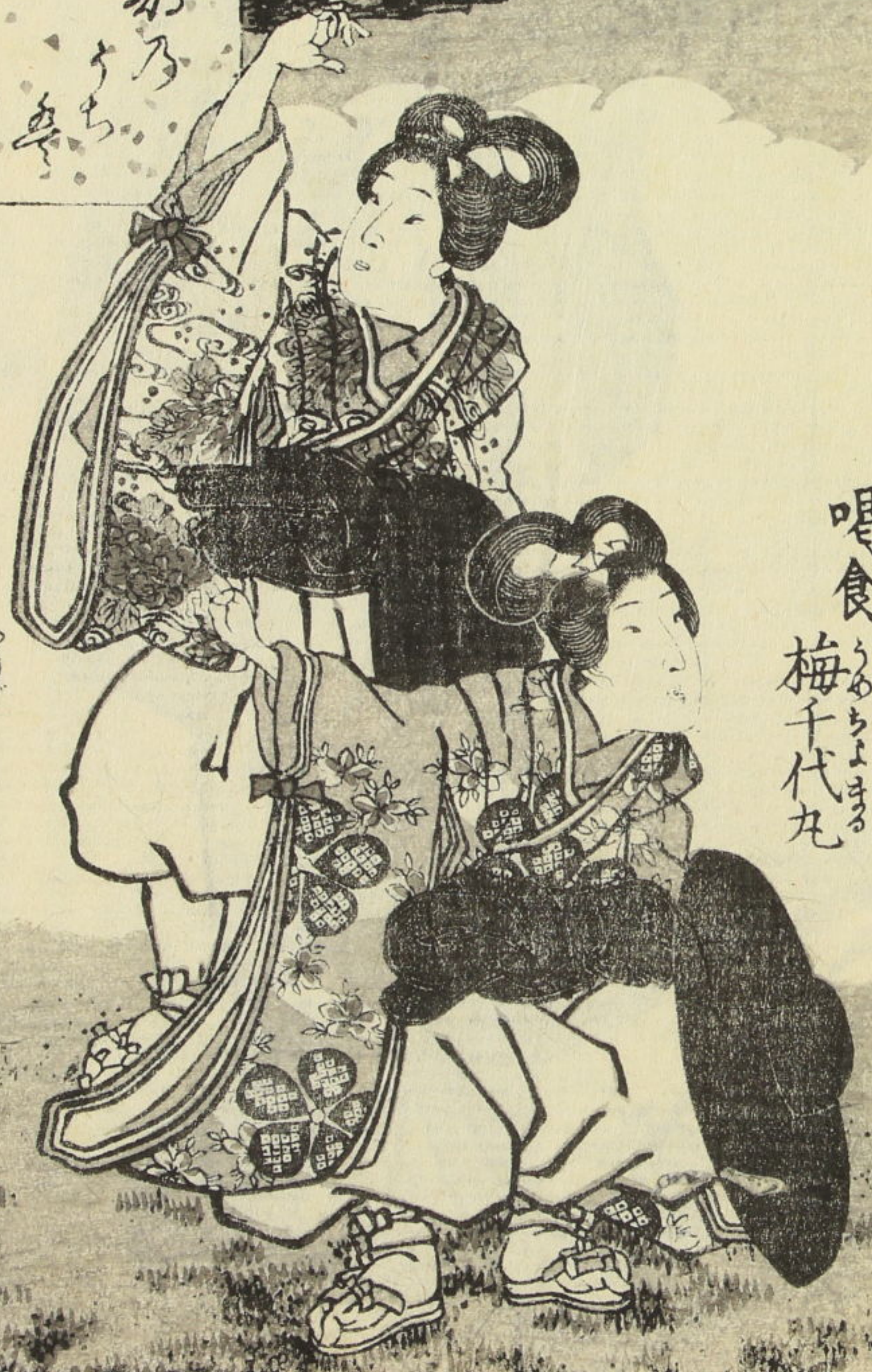
水の清漂なるも塞で流されば子子を生じ五穀の生を
育も鱧て食されば脾胃を損一日もあらずぬ物と云
程を失ふ時如此権化の作と称せらるる源氏といふも已ど
もいれぬやいさくの鱧飯より遙かきく看官の御腹中をわ
害人と思へ殊更筆も進まぬ硯の水も釘倒曳の生を遅々たる
夜延業坐眠からぬる燈下の机上ふくつるれりりふ流石よ
目覚てくるとささりと光君の仰せらる蹴鞠の段も遠くは
一編四冊の四本がや布連する鞠場砂ととと綴他人の
手際のとて羨くおもひあり

嘉永癸丑睦月

柳下亭種員



江戸
 水州
 梅千代丸
 菊千代丸
 明石の家と捨て山中に隠るる体



喝食
 梅千代丸

今
 菊千代丸

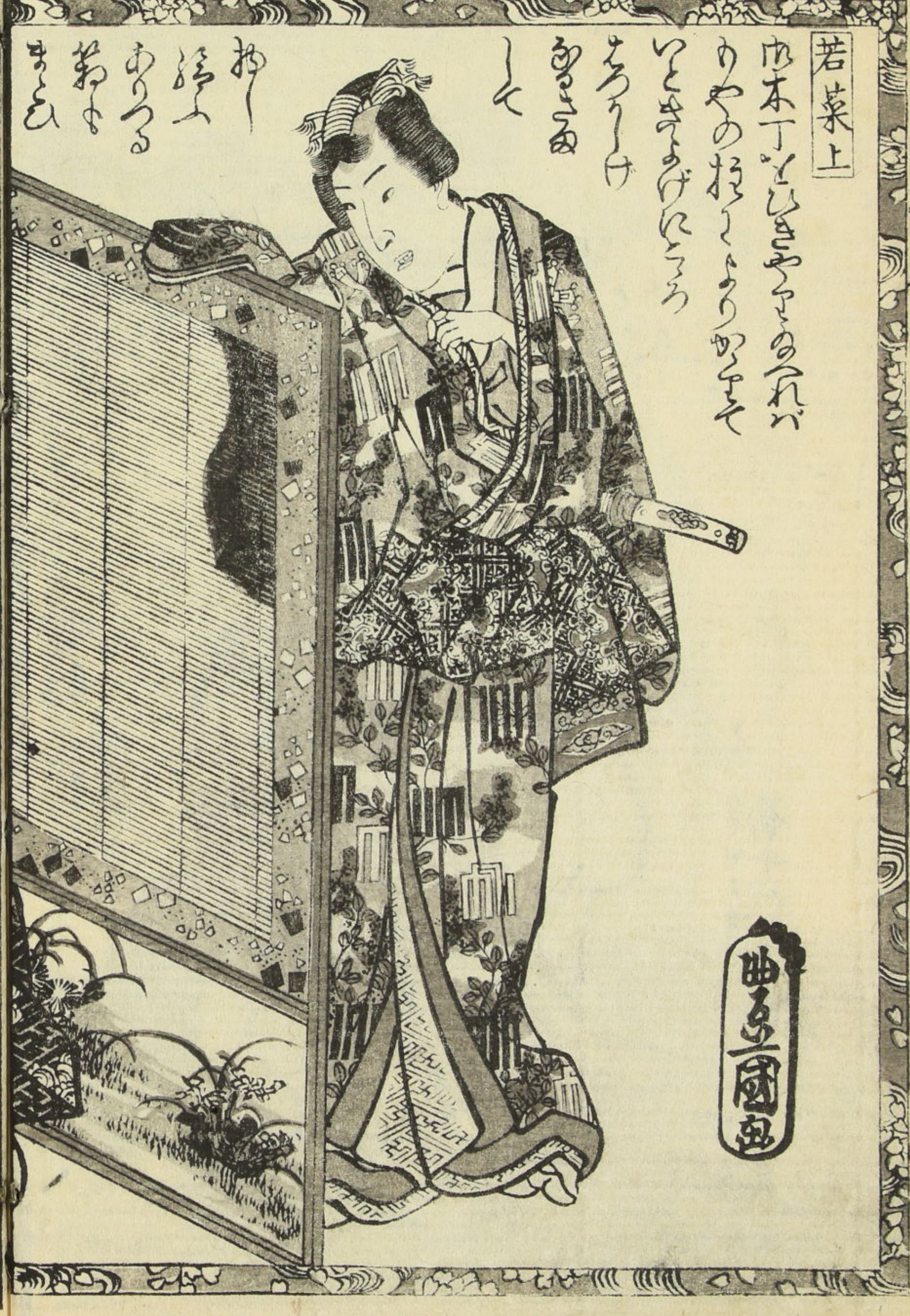
曲の園



山名持姿入道宗入
 明石の家と捨て山中に隠るる体



くきよきあはれ



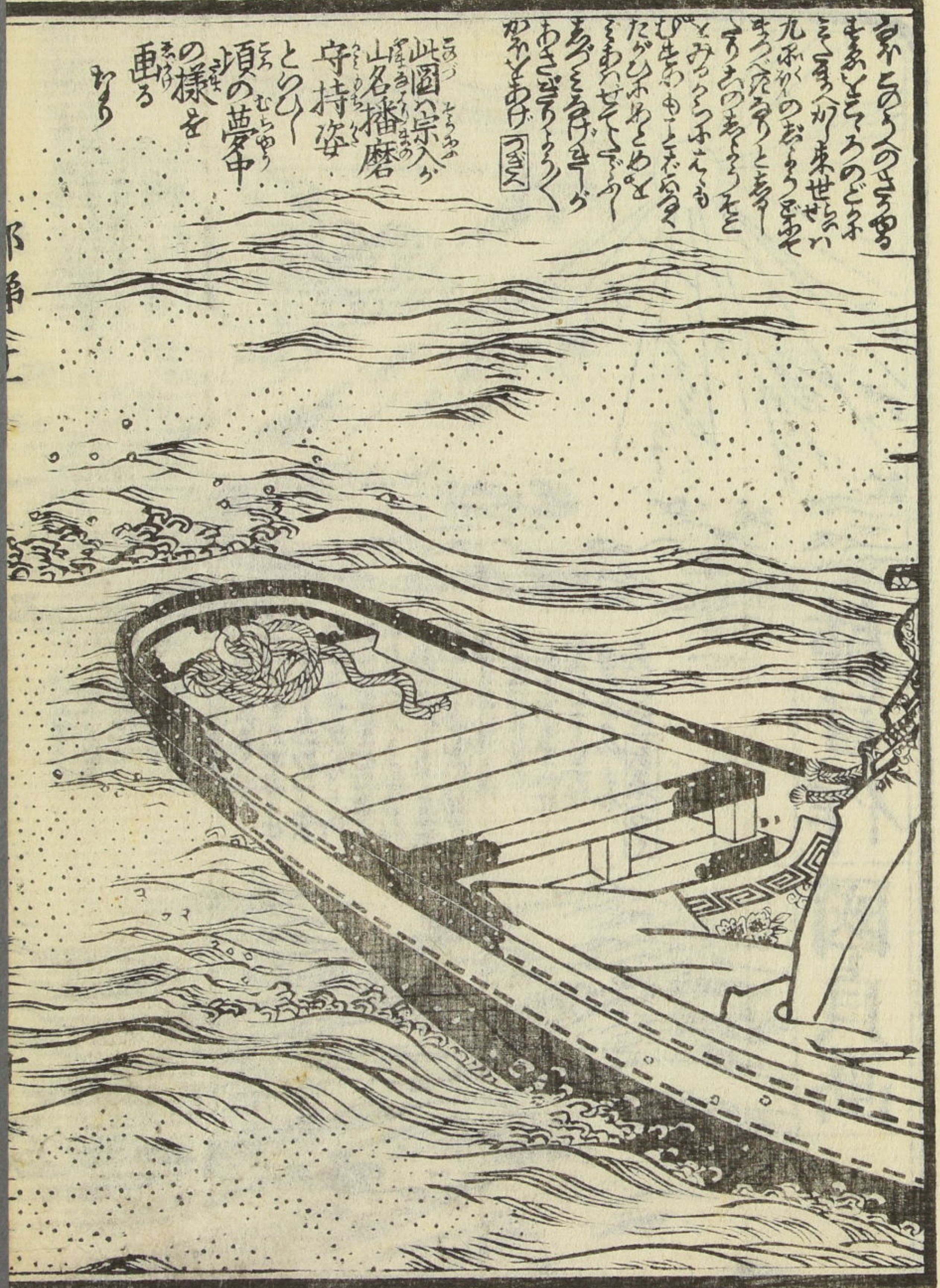
おしり
あつち
あつち
あつち

若菜上
内本丁
あつち
あつち
あつち

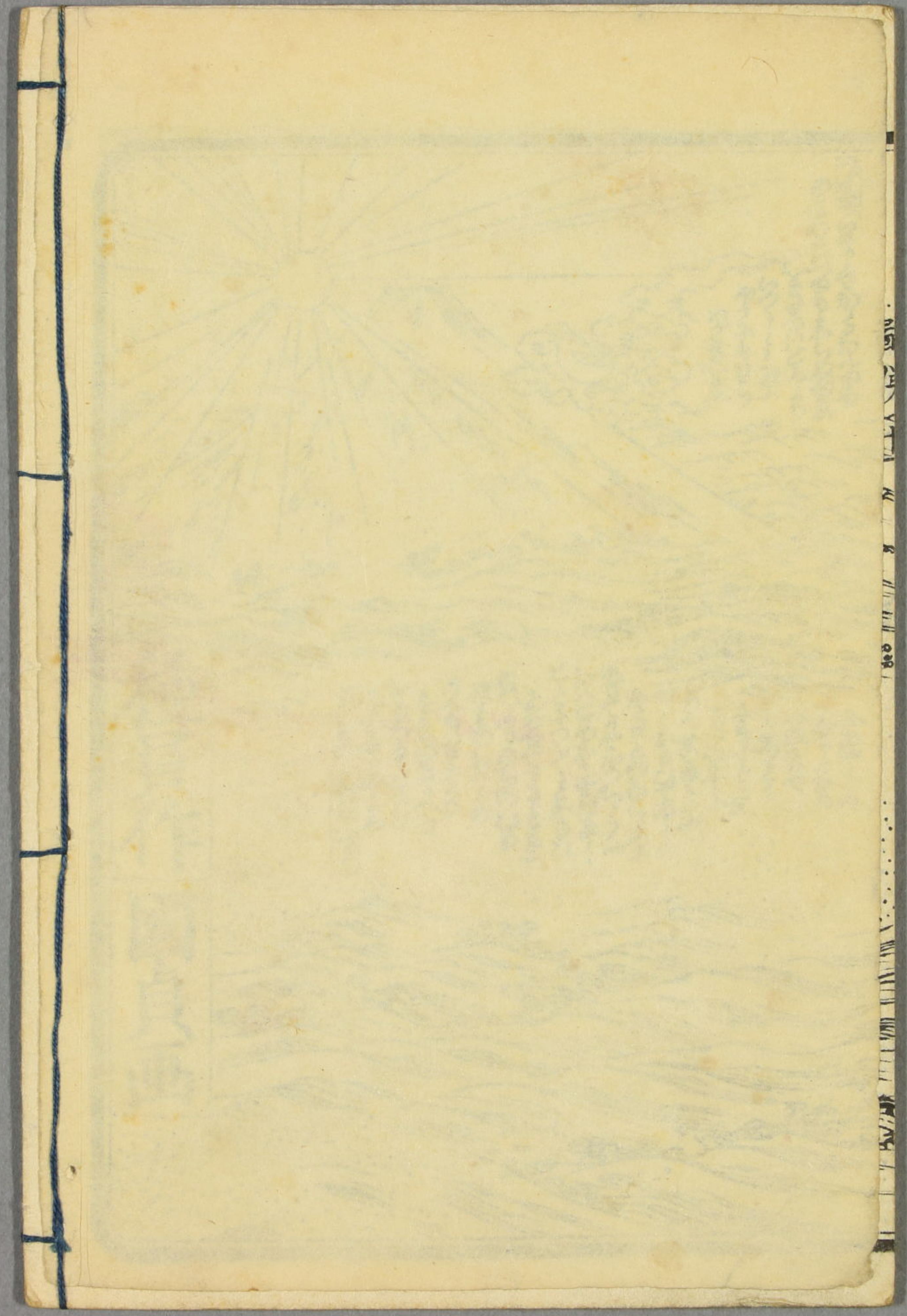
曲の國

留便上

此圖は宗入が
 山名播磨
 守持姿
 とのひ
 頃の夢中
 の様を
 画す
 なり



此圖は宗入が
 山名播磨
 守持姿
 とのひ
 頃の夢中
 の様を
 画す
 なり



都
優
緣

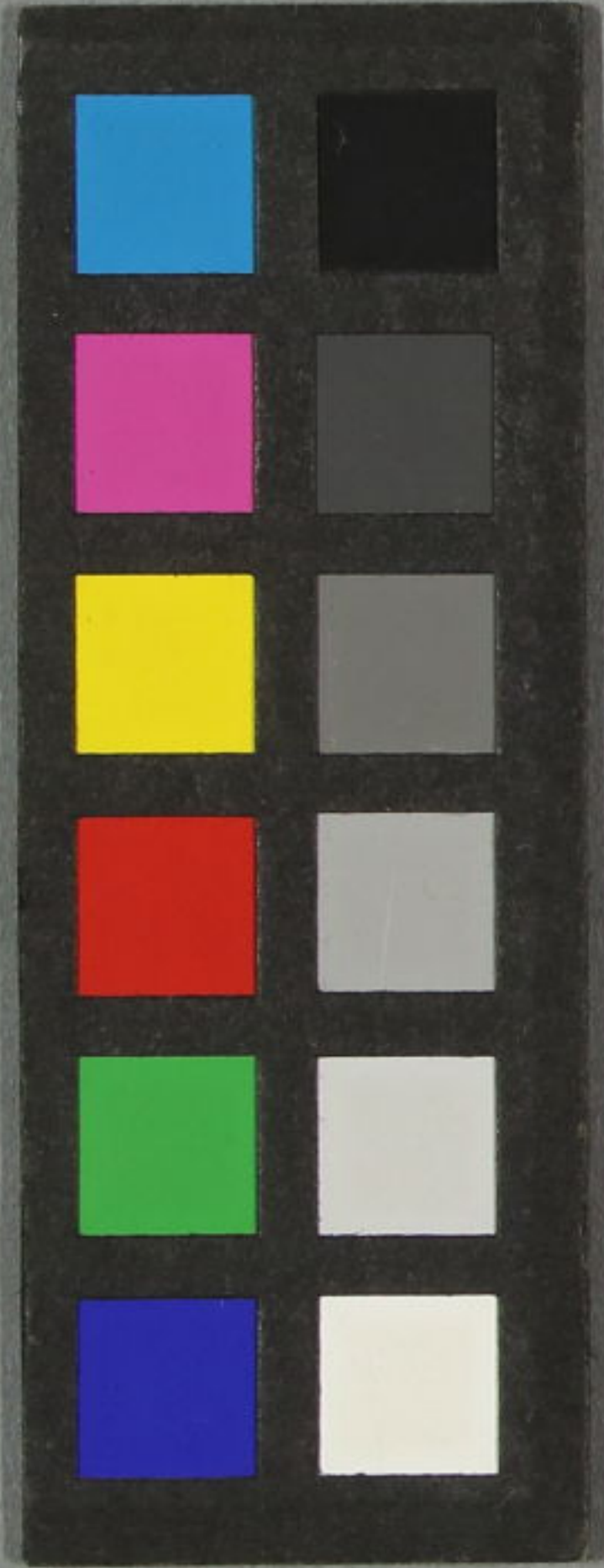
種員作
國貞画



外題曲五國忠

下編上

~ 13
3730
22





Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a haikai or a similar poetic form. The text is arranged in several columns around the central figure and the lamp. The characters are in a cursive style, typical of Edo-period book illustrations.



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the poetic or narrative content from the left page. The text is arranged in several columns around the two figures and the lamp. The characters are in a cursive style, consistent with the left page.



中の...
 林...
 二人...
 一...



手...
 林...
 世...
 世...

